

# 資源の有効活用と廃棄物の削減

ムラタでは、2003年度に国内21事業所・関係会社においてリサイクル率を100%にするゼロエミッション<sup>①</sup>を達成し、次のステップとして廃棄物の排出量そのものの削減に取り組んでいます。

## リデュース・リユース・リサイクルの推進

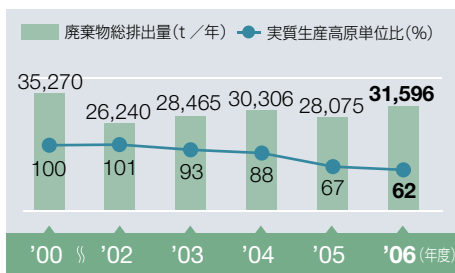
### 事業所間の情報共有で廃棄物を削減

2006年度の国内事業所・関係会社の廃棄物排出量は31,596トンで、2000年度に比べ約3,674トン削減しました。また、実質生産高原単位でも、2000年度比38%削減しており、目標を達成しました。

さらに、オフィスビルや工場などの新築工事時の建設廃棄物を100%リサイクルしています。

廃棄物を削減し、リサイクルレベルを向上させていくためには、各事業所間の連携が必要です。そこで、各事業所の廃棄物管理担当者が集うミーティングを定期的に開催し、各事業所の事例を紹介するなど情報の共有化と意見交換を行っています。

### 廃棄物排出量の推移



### 廃棄物管理担当者ミーティングの内容

- ・各事業所の廃棄物管理現場の視察
- ・廃棄物削減事例の発表、共有化
- ・各担当者間による意見交換
- ・外部専門家による最新の廃棄物管理情報の講演

### 従業員の声

#### 廃棄物を分別する技術を確立することもムラタの責任

ムラタでは、たくさんの使用済みPETやPP(ポリプロピレン)を他のプラスチックとともに製造現場から排出しています。私たちはこれらを分別することで、繊維製品や農業用資材へのリサイクルを実現し、廃棄物を削減しています。

中でもPETは自社で開発した設備を用いて、付着物との分別を積極的に進めています。「製品を製造する技術とセットで廃棄物を分別する技術を確立することこそ、循環型社会における製造者の社会的責任である」ことを実感しています。



出雲村田製作所  
管理部 環境管理課  
岡 克己

### 100%マテリアルリサイクルを達成

ムラタでは、廃棄物排出量の約70%を占める廃液・廃プラスチックの削減に注力しています。2006年度も昨年同様、廃液の削減、PETフィルムのマテリアルリサイクルに取り組みました。

リサイクル状況を管理し、適切に分別した結果、2006年度のマテリアルリサイクル率は、目標通り100%を達成しました。

### 海外工場でのゼロエミッション

ムラタでは、2003年度に国内で廃棄物ゼロエミッションを達成し、現在も維持しています。さらに海外においても、2006年度新たに「2010年度にゼロエミッション達成」という目標を掲げ、取り組みを進めています。

**ムラタのゼロエミッションの定義とは?**  
直接および中間処理も含めた埋め立て廃棄物をゼロにする(リサイクル率100%)ことをいいます。ただし、自らの取り組みだけでは対応できないと考えられる廃棄物(例:浄化槽余剰汚泥など)については、対象から除外しています。



掲載情報

- 電子マニフェスト
- 水資源の有効利用

▶ <http://www.murata.co.jp/csr/environment/09.html>

▶ <http://www.murata.co.jp/csr/environment/09.html>